

大木臨時議員提出資料

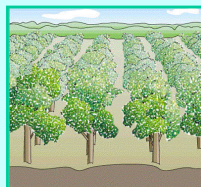
平成14年4月23日

1. 地球温暖化防止、循環型社会形成のための技術開発

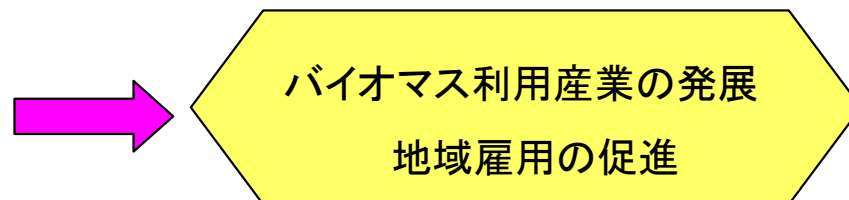
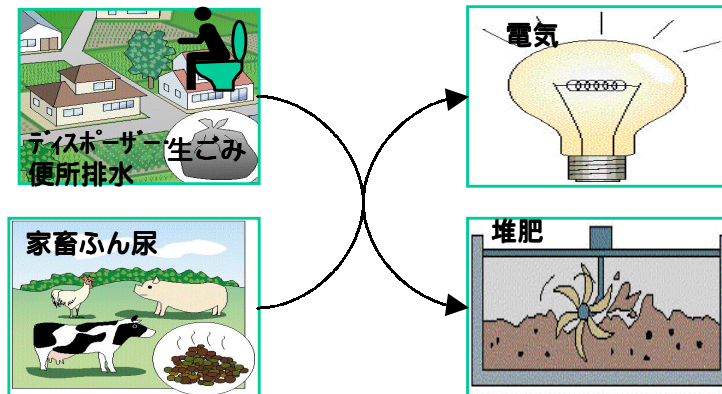
○バイオマス循環利用技術システム

食品廃棄物、動物のふん尿等の廃棄物や森林資源などのバイオマス資源の高度利用技術システムを開発し、モデル地域(バイオマス高度利用地区)で実証する。

- ・エネルギー回収の高度化
- ・メタノール、コンポスト等バイオマス活用製品製造技術
- ・有用資源回収・自然資源再生技術
- ・森林等によるCO2固定技術



(将来の市場規模: 1兆2,000億円以上)



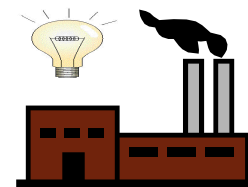
○次世代廃棄物処理技術

循環型社会形成のための廃棄物処理技術を開発する。

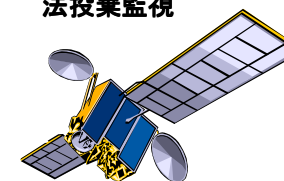
- ・廃棄物を利用した高効率発電システム
- ・廃棄物不適正処理による汚染現場の遠隔的把握や原状回復技術



高効率廃棄物発電



衛星による不法投棄監視



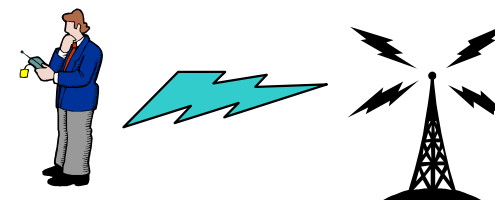
2. ナノテクノロジーを活用した環境技術開発

○パーソナル・ポータブルモニタリング技術

ナノテクノロジー・IT・測定技術を融合させ、地域レベルのモニタリングにとどまらず、個人レベルでのモニタリング・システムを開発する。

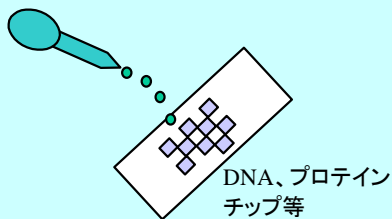
(市場規模: 4, 000億円)

有害物質



○健康・生態系影響評価のための環境ナノチップ

バイオ・ナノテクノロジーを活用し、環境中の有害物質の健康・生態系影響を迅速・正確に評価するシステムを開発する。



DNA、プロテイン
チップ等

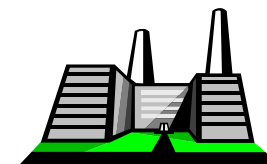
○有害物質の高効率除去膜

環境中の有害物質を認識・捕捉する分子鑄型を構築し、有害物質除去システムを開発する。

(市場規模: 2, 000億円)



新たな環境産業の創出



3. 国際競争力強化・地域活性化

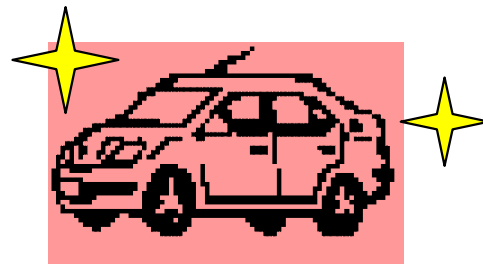
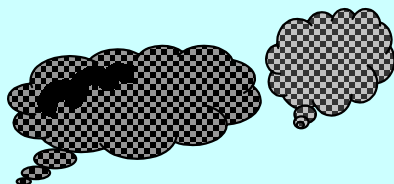
世界レベル

○ナノ粒子の健康影響評価

→次世代型エンジン開発の方向性の提示

EUは自動車排ガス中のナノ粒子を2008年頃に規制する方向にある。

➡ 我が国としても、ナノ粒子の環境中の挙動、健康影響を解明し、その結果を用いて次世代型エンジン開発の方向性を示す必要がある。



自動車産業の国際競争力の強化

地域レベル

○環境技術の実証・評価システムの構築

ベンチャー企業等が開発した環境技術が客観的評価の不足のため市場に普及しにくい現状にある。



➡ 先進的環境技術を実証・評価することにより普及を促進し、環境保全と経済活性化の双方に資する。(一挙両得アプローチ)



地域の環境産業の活性化・雇用の創出